

一隅を照らす
人間になろう

天台宗

法性寺

にて

道心を学ぶ!



山号	和田山(わださん)
宗派	天台宗
本尊	大日如来
創建年	1016年(平安時代中期)
開基	暹賀(せんが) 比叡山第22代天台座主
住職	野田賢宏
住所	岡崎市法性寺町上屋敷

◆山門

寺の西側に小さめの山門があり、山門の両脇には仁王像がある。仁王像の背面には「法性寺六坊」と記されている。岡崎市では、滝山寺・真福寺の仁王像に次ぐ、貴重な文化財の仏さまである。



山門の奥に本堂が見える。

天台宗(てんだいしゅう)；法華経を根本經典とする大乘仏教の宗派のひとつ。575年隋の「天台大師」智顛(ちぎ)が、(中国の)天台山にこもって大成。天台教学(理想と実践哲学)は奈良時代に唐僧鑑真によって日本に伝えられ、奈良で勉強をしていた「伝教大師」(最澄)の目にとまるところとなった。最澄は遣唐使と共に危険を冒して中国に渡り、天台山を尋ねて、研鑽を深め帰国後、比叡山に延暦寺を建て開宗。多くの日本仏教の宗旨がここから展開した。天台宗では、天台大師を『高祖』、伝教大師(最澄)を『宗祖』と呼んで尊崇している。



野田住職曰く“気づかずに通り過ぎてしまう、目立たないお寺”だが、かつては、七堂伽藍を備えた大寺院であった。山門を入ると右に『一休さん』が鎮座している。“知恵と元気を下さい一休さん”とお願いしながら一休さんと自分の頭を交互に撫でる。



※第2回目の訪問先の「法性寺」。会員の皆さんが集まってきました。車・自転車・徒歩…

9:37

9:44

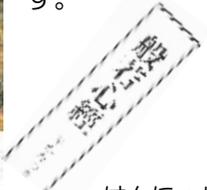
9:50



◆本堂



今日は、野田
住職からお話
をいただきます。



はんにゃしんぎょう

般若心経（般若波羅蜜多心経）；仏教における經典のひとつ。300文字にも満たないわずかな文字数で、大乘仏教において重要な「空（くう）」の思想が説かれているのが特徴。法相宗・真言宗・天台宗・禅宗を中心として、仏教の多くの宗派で読まれている（その宗派独特の解釈を行っている）。基本的に般若心経を読まない宗派には、浄土真宗・日蓮宗がある。
〈参考資料1 参照〉

【野田住職のお話】

“本日は、山田さんから話をいただきまして、おいでいただきました。10時から11時半までということで、結構時間がありますが、この寺には特に何もなく、私は話をする知識も持ち合わせていませんので、どうしたものかと思いましたが、まずは、比叡山の話をさせていただきます。”



【比叡山について — 野田住職のお話から】

「比叡山」延暦寺は、日本の信仰の中心地となる特別な寺

- 比叡山は、「天台宗」の総本山。平安仏教の中心地。山岳信仰の聖地。
伝教大師最澄が延暦7年（788年）に、一乗止観院という草庵を建てたのが始まり。（創建年）
末寺はあるが（他の宗派と比べて）少ない。約3000カ寺。

〔参考〕主な仏教教団(宗派)の寺院(団体)数 = 曹洞宗 14,539、浄土真宗本願寺派 10,167、真宗大谷派 8,516、浄土宗 6,902、日蓮宗 4,661、高野山真言宗 3,598、臨済宗妙心寺派 3,350、天台宗 3,331
平成30年版「宗教年鑑」（文化庁）より

“観光でお寺を訪れると、宗派が天台宗だったのか、というのは多々あります。天台宗の有名なお寺には、三千院・寛永寺・中尊寺などがあります。善光寺は天台宗と浄土宗を兼ねています。天台系のお寺に浅草寺・四天王寺があります。自己採算で上納はしていません。これらの有名なお寺は（財政的には）楽ですね”

- 比叡山は、京都の鬼門（北東）鎮護の役割を担っている。
都の中心である御所から、ちょうど鬼門に当たる北東の延長線上が比叡山であったので、「京の都に鬼が入って来ないように、仏教の力で鬼門を封じてしまおう！」ということで、鬼門封じの役割も持って延暦寺が建立されている。

【参考】鬼門 = 陰陽道で、邪悪な鬼が出入りするとして万事に忌み嫌われた良(うしとら)（北東）の方角。

- 比叡山は、日本仏教の母山。
鎌倉時代の新仏教を開いた各宗の開祖は、皆、比叡山で修行・出家得度している。

法然上人（浄土宗）、栄西禅師（臨済宗）、親鸞聖人（浄土真宗）、道元禅師（曹洞宗）日蓮聖人（日蓮宗）など



参考写真
京都市内から見る比叡山

- 比叡山では、根本中堂が一番の本堂（総本堂）。
草庵の一乗止観院が、後の根本中堂。
比叡山山内を地域別に、東を「東塔（とうとう）」、西を「西塔（さいとう）」、北を「横川（よかわ）」の三つに区分している。これを三塔と言ひ、それぞれに中心となる仏堂（中堂）がある。
延暦寺発祥の地「東塔」は、本堂に当たる『根本中堂』が国宝に指定されている。

参考写真



根本中堂

- 比叡山延暦寺は、お寺をさすのではない。
「延暦寺」とは、比叡山の山内にある1700ヘクタール（東京ドーム363個分）の境内地に点在する約100ほどの堂宇の総称。延暦寺という一棟の建造物があるわけではない。

- 比叡山は、年号「延暦」を寺号に賜った。
日本の国を鎮め護る寺として朝廷から大きな期待をされ、桓武天皇時代の年号「延暦」（開創時の年号）をとった延暦寺という寺号が、最澄没後の弘仁14年（823年）に許された。

- 比叡山は、景観が素晴らしい。

“比叡山は、滋賀（東）と京都（西）の境にあります。（東には「天台薬師の池」と詠われた日本一の琵琶湖を眼下に望み、西には古都京都の町並を一望できる）比叡山からの景観は素晴らしいです。ドライブウェイを使って車もいいですが、ケーブルカーもあります。ケーブルカーは大津（坂本）からと京都（八瀬）からの2本あります。ケーブルカー（大津）は根本中堂しか行けないですが、車なら各所を回ることができます。”



参考写真
大津市街とびわ湖を一望

- 比叡山「延暦寺」は、ユネスコ世界文化遺産。
1200年の歴史と伝統が世界に高い評価を受け、1994年（平成6）年12月5日に、「古都京都の文化財」（京都市、宇治市、大津市）として登録された（日本で5件目の世界遺産）。

「比叡山」焼き打ちと復興

“448年前（1571年）に織田信長による「比叡山焼き討ち」がありました。当時の比叡山は、寺領を持ち軍事力を持って、僧兵を抱えていました。いい僧兵もいましたが、悪い奴がはびこっていました。彼らは女も買っていたのです。信長はこうした（修行をおろそかにし神仏への奉仕の心を忘れた）墮落した僧（兵）が嫌いだったのです。もちろん、京へ上るのに障害になる勢力をなくしておくという戦略的目がありました。比叡山が手を結んでいた、浅井・朝倉軍と手を切って和睦するよう探っていましたが、できませんでした。結果、焼き討ちが実行されました。”

“陣頭指揮をしたのは、秀吉と光秀です。2方向から攻めました。2人は、焼き討ちには反対したんです。しかし、聞き入れられませんでした。焼き討ちは行われましたが、宝物を背負って持ち出そうとする僧を見逃して逃がしてくれました。そのお蔭で、貴重な宝物が残っているんです。その後、（戦後処理をまかされた光秀）は坂本に、秀吉は長浜に築城することになります。”

“比叡山が復興したのは、秀吉と徳川のお蔭です。逃げ出した僧（正覚院豪盛）は甲斐の武田信玄を頼りました。武田信玄は彼らを受け入れ、焼かれた延暦寺をもう一度建て直そうとします。しかし、武田信玄は1573年に病死してしまい、延暦寺復興は遠ざかりました。（本能寺の変後）羽柴秀吉に復興を願い出ました。しばらくはダメと言われましたが、1934年に再興の許可が下り、徳川家康も再建に加わり、根本中堂は、徳川3代かかって、徳川家光の時代（1942年）に再建されました。その陰には、3代にわたって徳川家に影響を与えて生きた「天海」がおり、彼のお蔭で寺院が立派に再興できたのです。”

【法性寺について — 野田住職のお話から】

「和田山 法性寺」の歴史



■平安時代中期に創建（初めて建てる）。

平安時代中頃になると、都の文化や宗教が地方の暮らしにも影響を与えるようになってきた。天台宗も地方に広がり、法性寺は、天台座主第22代・暹賀（せんが）がこの地を淨地（寺を建てるのに適した土地）として選び、創建した。長和5年（1016年）と言われる。法性寺は、一山六坊の七堂伽藍を備えた大寺院だった。

「一山（いっさん）」＝同一の境内にある本寺、末寺などすべてを含めた寺院の総称。「坊」＝小院・僧の住居。「七堂伽藍」＝寺の主要な七つの建物のことであるが、単に多くの建築物を擁する大寺院を表すことも。

法性寺の六坊は、定光坊・杉本坊・蜜祥坊・中ノ坊・蜜嚴坊・大円坊。

■室町時代の終わりごろ、松平広忠（徳川家康の父）が一山六坊を甲山寺に移す。

六坊のうちの一つ「定光坊」の住僧・永玖は学識があり、岡崎城主松平広忠が深く帰依していた。永玖は、広忠から妻於大の方に男児が授かるよう鳳来寺の薬師如来に子授けを祈願することを命じられ、その先達を務めた。祈願の結果誕生したのが、後の徳川家康である。その功によって、法性寺六坊は、広忠によって、天文13年（1544年）に、岡崎城鬼門の守護である甲山寺（現 六供町）に移された。

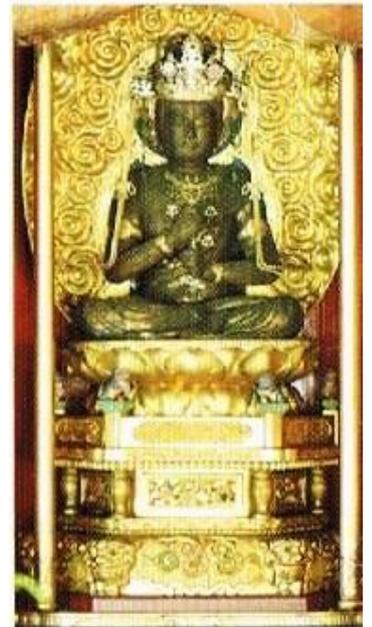
■大日堂（と庫裏）は、村民の願いによって残る。本尊は「大日如来」。

六坊は甲山寺に移されたが、村人の願いにより、本尊「大日如来」を祭る大日堂は残された。大日堂は、小さなお堂であった。法性寺は、わずかに大日堂だけが残り、ここが現在の法性寺の堂宇（本堂）となっている。

（今は継ぎ足して、少し広くなっている）

大日堂は、甲山寺の住職の兼務で存続したが、それ以後、長い間空き寺となり、時代の変遷をたどり、かつての姿はほとんど残していない。徳川家康は、1603年に甲山寺本堂を再建するのあたり、法性寺（大日堂）の仁王像二体を甲山寺に移した。その際、朱印地を、甲山寺に250石、法性寺に17石与えた。（松林寺朱印地5石、大聖寺朱印地23石2斗…）

“私の父親は、甲山寺からこの法性寺に入りました。それまでは無住（住職がない）寺だったんです。甲山寺は遠いので、キーは町内で保管していました。総代が預かっていたんです。”



本尊
大日如来

行基菩薩の作と言われる
〈参考資料7 参照〉

■「仁王像」は、岡崎空襲の直前に法性寺に戻り、難を逃れた！

仁王像は、家康によって甲山寺に移され、長い間、岡崎城の守護神として、鬼門である北東を守ってきた。時は現代になり、岡崎空襲（昭和20年7月20日未明(0時52分から2時10分)）の前日、甲山寺の住職から、現住職の祖父母（野田政次郎・桑津 夫妻）に、“夢枕に仁王さんが現れて、法性寺に帰りたい、と告げられた。至急迎えに来てほしい”と連絡があったので、両人が、大八車を引いて、その日のうちにお迎えして、法性寺に安置した。その当夜の空襲で甲山寺は焼けてしまい、間一髪災難から逃れることができた、不思議な力を持つ仁王像である。

“これはたんなる言い伝えではありません。実話です。私が祖母から聞いています。”



口を結んだ
吽形（うんぎょう）像

◆金剛力士像（仁王像）

- 室町時代末の作。小型（130cm）で珍しい。
- 寄せ木造り。水晶の眼が入っている。
- 背面に「法性寺六坊」と記されている。

いつも対になって諸悪に立ち向かう金剛力士の阿形と吽形は、意志は通い合い、呼吸はぴったり。無言のままでも意志疎通が出来ていることを「阿吽（あうん）の呼吸」と呼ぶのは、金剛力士が由縁。向かって右側に阿形像、向かって左側に吽形像の配置は、通常であるが絶対ではない。（口を確認）

2体で一対



口を開けた
阿形（あぎょう）像

現在の 法性寺

境内の花



ホテイアオイ

フジ

紫の花 2種でした

◆地蔵堂 と 本堂



○地蔵堂は、昔、犬頭神社の鳥居近くにあった。行き交う人々の安穩を願い、馬に乗って来た人は、馬が止まってしまうので、必ず下馬してお参りしたと言われる地蔵様。（この道＝法性寺の南の道は、鎌倉街道だと言われている） 天保13年（1852年）に現在地に持ってきた。

お地蔵さん…現世利益の菩薩。人々の苦しみや悩みを癒してくれる仏さま。

■「本尊」…いろいろお祭りしている。



不動明王 聖徳太子



親鸞聖人



大日如来



薬師如来 観音さま



元三大師 (慈恵大師)

阿弥陀如来

- ◆不動明王 … 大日如来の化身。
- ◆親鸞聖人 … 浄土真宗の宗祖。

“この辺りは、浄土真宗の信者が多いので、その人たちがお参りしやすいようにしています。この本堂の祭壇も本願寺の造りに変えています”

- ◆大日如来 … 秘仏であるため、扉開されるのは、毎年旧正月の28日の法要日だけ。

“法要の時は、お供えの鏡餅でいっぱいになります。神も仏も、餅は特別な食べ物なんですね。半分はおさがりとして貰えます。”

- ◆元三（慈恵）大師 … 第18代天台座主。比叡山中興の祖。おみくじの考案者。鬼のような姿で災厄を降伏して下さる『厄除け大師』の護符は、守り札としておなじみ。



本尊 天台宗のお寺のご本尊は大日如来、
 縁起師様、阿弥陀様、不動様、
 地蔵様、観音様など色々あるが、
 いずれも法華経によって示された、
 永遠の宇宙の身体としての法華
 妙法と同一体であるから、すべて縁
 に従ってこれらのお仏、菩薩を敬信
 いたします。



↑〈参考資料3 参照〉

■岡崎市には、町名になっている寺が3カ寺ある。

○三町 = 高隆寺町、真福寺町、法性寺町。中の名前が寺名に由来し、現在もその寺は残っている。
 （大樹寺…大樹寺町はない。大樹寺1～3丁目。大樹寺の住所は鴨田町。昔、大樹寺村の時代はあった）

“今日はお越しいただきありがとうございました。地元の研究もいいですが、皆さんそろって、ぜひ、日本仏教の母山である「比叡山にも言って下さい。”

11:35



山田会長

“軽妙な語りでのご説明ありがとうございました。私は節分祭の豆まきに出させていただきますでしたが、実に盛大にやられていました。賄いも若い人が多く、町外から参加されているんです。”



終了後も自主研修。仁王さんを探る。

11:49

参考資料は、別紙「資料編」をご覧ください